



4



3



1



全国各地からボランティアが集う南三陸町。町の内陸部には緑豊かな田園風景が広がる。



6



5



2



7

1 イースター島から贈られたモアイ像。目のあるモアイ像は世界でも2体。2 深江町の小林保育園からの支援物資。3 安倍首相が南三陸町を視察。4 オーストラリアからの交流支援。5 サッカー日本代表の長谷部誠選手が幼稚園を訪問。6 南三陸応援団交流イベント(協働、交流を目的とした南三陸応援団。会員数は1,370人を超える)。7 南三陸の海産物。

# 特集 ～あの日から5年～ 東日本大震災災害派遣レポート

南島原市災害派遣職員 佐藤 守護

## “あたりまえ”を取り戻すために

**“あたりまえ”を取り戻すために**

町のこれまでの5年間は、あたりまえを取り戻すための戦いだったといえます。

震災後、水道や電気といったライフラインは途絶え、津波で自宅を失った人は、避難所である体育施設や学校、集会所に避難し、肩を寄せ合いながら過ごしました。町内全域の電気が復旧したのは震災から80日後、水道にいたっては143日後のことでした。

現在、町では738戸の災害公営住宅の建設や安全な高台に住宅を建設するための土地造成工事(841区画)を行っており、平成28年度内の完成を目指しています。また、教育では戸倉小学校の落成により町内にある全小中学校が復旧しています。



津波は高さ12mの防災対策庁舎を越え、町を飲み込んだ

**あたりまえ**

皆さんにとって「あたりまえ」とは何ですか。

喉が渴いたから水を飲む。お腹が減ったからご飯を食べる。寒いからエアコンを入れる。外出するため車に乗る。眠たくなったから布団で寝る。家に帰ると家族が待っているなど、人によって「あたりまえ」と感じることは、さまざま。私が今、働いている南三陸町でもこれらのことはあたりまえでした。

5年前の3月11日までは…。



被災前の魚市場

未曾有の被害をもたらした東日本大震災。テレビに映された映像は衝撃的で私たちは言葉を失いました。あの日から5年。本市が独自支援している宮城県南三陸町に出向し、復興に携わる市職員のレポートを通して震災を見つめます。

### あの日がなかったら…

平成23年3月11日午後2時46分。三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生。町では震度6弱を観測しました。午後2時49分、大津波警報が発表され、6メートルの津波の到達が予想されました。

その後、津波の高さは10メートル以上に修正され、午後3時25分、町を襲いました。津波は一瞬にして、家族や友だち、学校や仕事場など、ありとあらゆる物を奪い去りました。町での被害は、死者620人。行方不明者は212人、半壊以上の建物被害は3,321戸(町の全世帯数の約6割)にのぼりました。



妻まじい勢いで襲ってきた津波

医療面では、台湾紅十字からの22億円もの義援金により南三陸病院は完成しました。震災直後からのボランティア数は延べ15万人を数え、全国、全世界の皆さんからの多大な支援によって、目に見える形で復興が進み、発展への兆しが見えてきました。



造成地に第1号のお店がオープン



昨年末に完成した「南三陸病院・総合ケアセンター南三陸」